令和 6 年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
自ら考えて行動する子	やってみよう ためてみよう	子どもがやってみようと思ったことを、子どものつぶやきや姿から捉えて、子どもの姿を共有している	子どものつぶやきや姿を捉えて、担任間や学年で、10分間トークを活用しながら、子どもの姿を共有している。園内公開保育にて、子どもの姿を職員間で語り合い、次の教育保育につなげている	A	A	・職員同士の共有事項が「危険なこと」「注意点」だけでなく、子ども達の気持ち、発言なども共有されている ・子どもと一緒に職員も楽しんでいる様子が伝わる	・職員会議に日誌を持ち寄り、子どもの姿を語り合う ・語り合った内容を参加していない職員にも共有できるように、ファイルして休憩室に設置する
		子どもがやってみようと思ったことを保育者と一緒に真似たり、体験したりして子どもの興味関心を知ろうとしている	泡遊びや水色遊びでは石鹸や水の量を調節するなど、子どもが遊びの中で気付いた事や不思議に思う事に共感し、子どもと一緒に保育者が遊ぶことで、子どもの興味関心を探り、硬いクリーム状の泡を作る楽しさなどを共感している	A	A	・子どもの思いを大切にしたり取り組みが十分になされている ・小学校が目指している「個別最適な学び」と方向性が同じ。このまま続けて連携していく必要性を感じた ・様々な細かな課題まで目を向けていくと忙しさを増やしてしまうので、業務改善が必要	・各学年で工夫して環境設定している事を、金曜日の環境会議にて、職員全体で共有していく ・環境会議に会計年度職員も参加し、共有を深めていく
		子どもが自分で選んだり、考えたりできる素材や教材を用意している	給食で出たカップや牛乳パック、家庭にある廃材を使って園内外で自由に使えるよう準備されている。廃材を使って作った物を飾り棚に入れ、名前を付けて玄関に飾るなどの飾り方も工夫し、完成品を大切にすることも伝えている	B	A		廃材のため自由に使えるが、一方で、物を使ったら元に戻す事や、日頃から室内を整理整頓するなど職員が手本となるようにする・保育者の思いが先行しすぎないように子どものやっている姿を見守り個に合わせて声をかけて関わる

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	「やってみようプラン」を活用しながら、就学までに経験させたいことを意識し、0歳から連続性をもった保育計画がされている	0歳から就学までの教育保育の連続性を分かりやすく捉えるために「やってみようプラン」を活用し、カリキュラムに反映させ、連続性をもった保育計画が実施できるようにしている	A	A	・保育者が作った物を展示し、子ども達に見せる取り組みが良い。子ども達が真似して作ったり、イメージが膨らんだり、意欲につながると思う	「やってみようプラン」を、学年会議や幼児会議で議題に挙げ、定期的の実施した事を書き込んだり、見直したりしていく事で、次の保育の見直しにもつなげる
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人に合わせた生活リズムと、生活スペースを確保して保育を行い、子どもの成長を保護者と共有している	家庭環境や家族の背景を探り、園でどのような支援が必要なのかを考えながら、一人一人に合わせた支援をしている。連絡ノート等や迎送時のコミュニケーションで、子どもの成長や様子を保護者と共有できるようにしている	A	A	・写真や先生達の話から、子ども達が日々過ごす中で、充実している様子がみえる	保育ソーシャルワーカーと連携を図り、家庭の状況を共有していきながら、それぞれの家庭状況を丁寧に把握し保護者を支えていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの「やってみよう」「ためてみたい」思いが実現するような環境が用意されている	子どもたちの「やってみよう」「ためてみたい」という思いを子どもの姿から把握し、それを実現できるように、環境会議を行い、素材を用意したりと、朝の遊び出しの環境を整えるなどの工夫をしている	A	A	・地域防災訓練が毎年12月に開催されているが、こども園・幼稚園・保育園の関係者の参加がない。避難場所になる可能性もあるので、参加した方がよい ・災害時の訓練では、必要以上に園児を怖がらせる事なく、災害時に保育者と共に子どもが取るべき行動が、子ども達に伝わっている	・保育者自身が子どもの興味関心のある事をやってみたり試してみたりする事で、次の環境構成につなげる ・環境構成のやり方について、乳児と幼児の職員で声を掛け合いお互いの保育の情報交換をする
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	保育者が即時に判断して、各災害に応じた避難行動をとり、子どもと保育者が命を守る訓練が実施されている	南海トラフを受けて、年間計画を見直し内容を検討し直して訓練を実施する事ができたが、担任以外の保育者がクラスに入った時の役割分担の徹底が難しかった	B	B	・食育は、園だけの教育というより、家庭を巻き込む必要があるが、家庭環境はそれぞれ異なるため難しい。現状の園の取り組みで十分であると考え、更なる栄養士の成長に期待が高まる	担任以外の保育者の災害時の動きを徹底する事が難しいが、各クラスには分担当が掲示してあるので、担任以外の職員に伝えると共に、担任も定期的な表を確認し、緊急時には口頭で行動を伝え合うようにする
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもたちが食に対して興味をもてるような経験の場を作り、食べることで健康な体つくりの繋がりを伝えている	栄養士が各クラスの給食の時間に保育室に回り給食の進み具合を確認している。年長児が、げんきずっの活動をするようになり、より食育活動が活発になっている。年度当初から食育活動が盛んに行われると良いと感じる	B	B	・食育は、園だけの教育というより、家庭を巻き込む必要があるが、家庭環境はそれぞれ異なるため難しい。現状の園の取り組みで十分であると考え、更なる栄養士の成長に期待が高まる	年長児が、卒園前に年中児にげんきずっボード (食材分類) の活動を引継ぎ、年間を通して食育活動を継続していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の子どもの成長を、職員間で共有し、子どもの姿に合わせた支援や環境の工夫がされている	トトロの会が行われているが、内容の周知ができていない。支援を要する子どもたちの情報共有が、後半徹底する事ができるようになり、職員間で育ちを共有するための掲示物を利用するなどの工夫も見られた	B	B	・園や栄養士からの発信だけでなく、子ども達も役割をもって楽しんでいることがよく分かる	支援を要する子ども達の現れやかかわり方を、ファイルしいつでも全職員が閲覧できるようにする
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各職員が、自分の分掌の役割を理解し、分掌担当者を中心に職員間で計画的に取り組みがされている	各分掌ごとに計画的に実施し、分掌ボードで発信するなど、園全体の職員への伝達ができるように改善したが、変更点が不明瞭であったり、伝達忘れがある	B	A	・園では支援が必要な児童にどこまで支援しているのかを知りたい	立案した計画が確実に職員間に共有されるために、職員会議で情報共有したり、掲示する場所を変えるなどの工夫をしたりする
6 研修	(1)研修体制の充実	子どものつぶやきや姿を職員一人一人が語り合い、研修での気づきや学びを自身の保育に生かしている	園内研修では、正規も会計年度職員も1人1回以上参加することができた。話し合いの要点が明確になっていたため、円滑に話し合うことができた。タブレットを活用し、動画を撮って学ぶ機会を設け、自身の保育に活かしやすい工夫をした	A	A	・子ども達が多いにも関わらず、先生達が小さなヒヤリハットにととてもよく気付けていると感じた	こども園の園児の姿を通して、発達の手帳が学べるように、事後研修のやり方を見直し、研修テーマに沿った学びを得られるようにする
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが安全に過ごせる場が常に整備され、必要に応じて修繕が行われている	ヒヤリハットがその都度提出され、朝の打ち合わせでは前日の事例が報告されている。職員会議では、その月のヒヤリハットをまとめ検証し、周知され、必要に応じて修繕が行われている	A	A	・子ども一人一人全員に合わせた支援を目指すと職員に無理が生じるのではないだろうか。そのため、子どもが自分で選択できるように場や物を多様に用意準備する事が大切だと思う。子どもは自分のやりたい事を行うために、自分にとって必要なものを選択できる子になる事が重要だと考える。園が実施し、力を入れている事は小学校が目指している事と同じなので、更なる連携を図りたい	子どもの発達を理解して、保育者一人一人が安全な環境に対して意識をもって関わっていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と共に子どもについて語り合う機会を作り、保護者の声を丁寧に聞き取りと共に、園での様子をお便りやドキュメンテーションで伝え、子育ての悩みや楽しさを伝え合っている	コドモンでのお便り配信により、写真をカラーで保護者の方に届ける事ができるようになり、情報を分かりやすく伝える事ができるようになった。玄関での保護者との対応の際は、できるだけ一人一人の方と丁寧に話ができるようになっている	A	A		送迎が玄関なので、担任と顔を合わす事ができない時もあるが、引き続き、職員一人一人が意識し、学年間で声を掛け合い、担任が玄関に行き保護者と直接話をする機会をつくる
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	アプローチカリキュラムを基に、小学校との連絡を取り合い、就学に向けた活動内容を考え、交流をしている	アプローチカリキュラムは活用しきれていないが、後期になり、小学校との交流が増えた。子どもだけでなく、職員間の情報交換、交流をすることができた	B	A		アプローチカリキュラムを全体的計画に挟み、職員全体が目に見えるようにする。園内の研修に小学校の先生に来てもらい、共に学びアドバイスをもらう事も提案する
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロンを実施し、地域の子育て家庭へ、子育て情報や園の教育保育についての発信をしている。連携園と交流し、地域の子どもの育ちを共有している	おしゃべりサロンを実施し、未入園児の交流の機会がある。園の子どもがサロンに参加する時間を設ける事もできた。地域の小規模保育施設である連携園との交流の実施もされた	A	A		・園の教育保育を発信できるように、園児がおしゃべりサロンに参加して手遊びや歌、踊り等を披露する時間を年間を通じて計画する